

事例 30 茨城県日立市

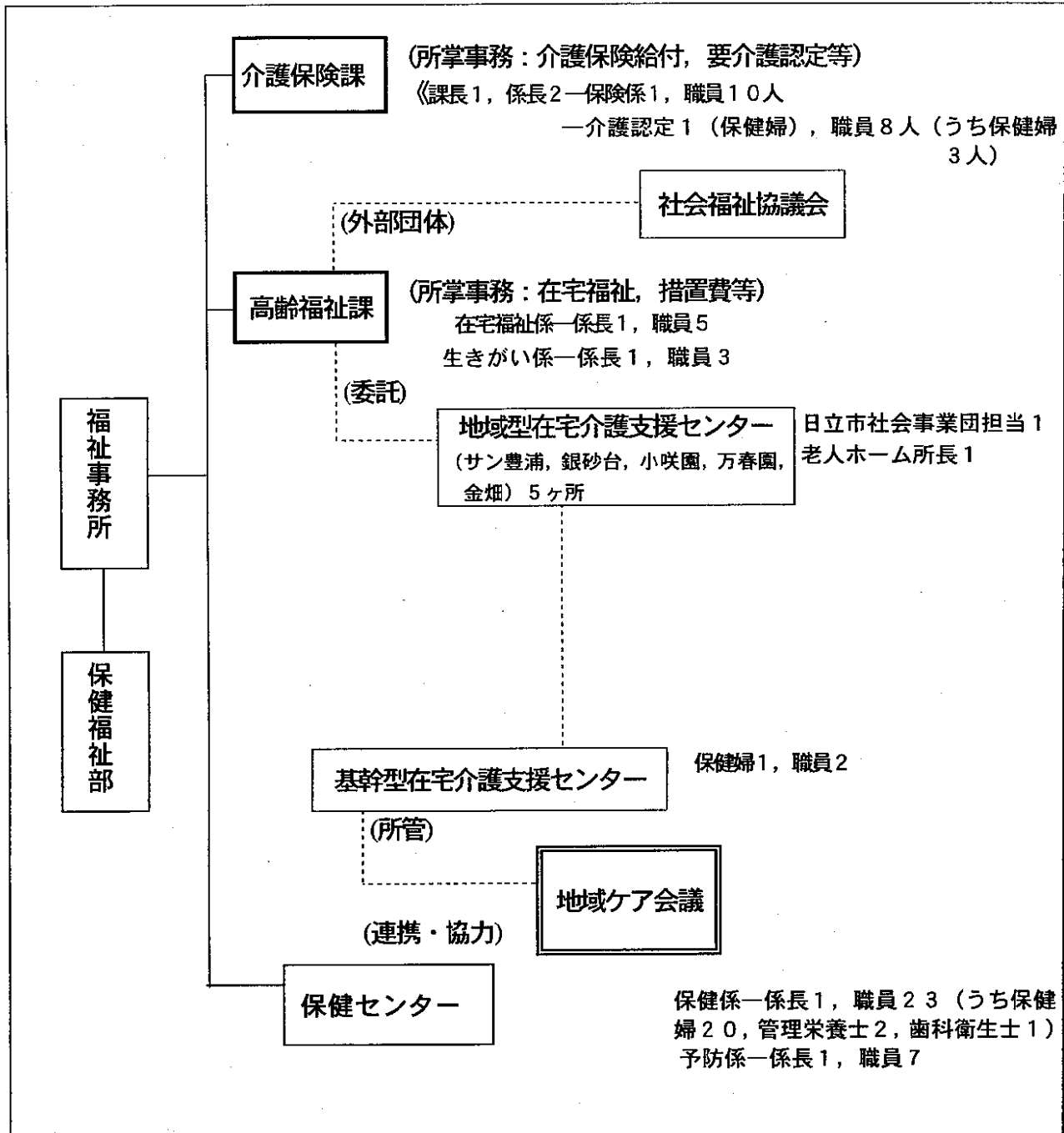
人 口	193,952 人
高齢者数	33,718 人
高齢化率	17.38%
担当部署	保健福祉部保健センター

1. 市町村の概況

市町村の沿革・概要	<p>本市は茨城県の北東部に位置し面積約153 Km²、市域の60%を占める森林と南北24 kmにわたる長い海岸線を有し、美しい水と緑の自然に恵まれた都市です。平坦地は、海岸線に沿った帯状の地域と南部地域に存在しています。市街地はこの帯状の地域に、我国有数の工業都市として発展しました。</p> <p>まちづくりの理念として、創造・交流・人間環境の三本柱を設け、都市像として「創造とふれあいの都市・日立」を目指しています。</p>									
人口	193,952 人		高齢者数 (高齢化率)	33,718 人 (17.38%)						(特) (4年)
世帯数	65歳未満の者のみの世帯			65歳以上の者のいる世帯						
	—			単独世帯	65歳以上夫婦のみの世帯				その他	
				4141	4,645				—	
要介護認定 (申請)者数	申請中	非該当	要支援	要介護1	2	3	4	5	合計	
			296	976	558	412	459	571	3,272	
社 会	指定居宅サービス事業所 (か所数)		38	訪問看護 (12)	訪問介護 (8)	通所介護 (9)	通所リハ (4)	短期入所系 (13)	その他 (2)	痴呆対応型共同生活介護
	指定居宅介護支援事業所 (か所数)		18							
資 源 状 況	保健センター (か所数)		保健センター 1ヶ所 在宅介護支援センター 5ヶ所 ※保健福祉センターなど、保健・福祉が一体となった施設があれば、記入して下さい。							
	介護予防事業の拠点となる場 (か所数) (公的施設以外も含む)		保健センター, 老人の家, 老人福祉センター, コミュニティセンター, 社協 (生き生きサロン), 集会所, 公民館							
	介護予防事業の担い手となりうる組織・団体 (組織・団体数・人員数)		社協, ライフケア日立, 生きがい事業団, 体育協会, 老人会, 婦人会, 食改, 住みよいまちを作る会, 日立ライフ等							

※データについては、できるだけ直近のものをお願いします。

2. 市町村の高齢者保健福祉行政の組織図



- ※1 職員配置状況や所掌事務等についてもご記入願います。
- ※2 市町村直轄以外の在宅介護支援センター等についても組織図に書き込んでください。
- ※3 地域ケア会議等についても組織図に書き込んでください。

3. 「介護予防事業」を企画する前の状況について

質 問 項 目	回 答 欄
(問1) 「介護予防事業」に関連(類似)	(○) 関連(類似)事業があった。→問2～問4へ () 関連(類似)事業はなかった →問5へ
(問2) 実施していた事業は、どのような根拠に基づき、どの部局が所管していた事業ですか？ また、その事業内容についてもご記入下さい。 ※既存資料で、事業内容等わかるものがあれば添付して下さい。	記入項目例：事業実施の根拠(国庫補助事業、県単独助成事業)、所管部局、事業内容(事業名、事業目的、対象者、実施回数、スタッフ等) 事業実施の根拠：老人保健事業に基づく事業(国、県補助) 所管部局：保健福祉部保健センター 事業内容1 ①事業名：機能訓練事業 ②事業目的：心身機能が低下している者や閉じこもりがちな障害者や老人などに対し、活動の場を提供し、心身機能の維持訓練回復を図るために必要な訓練を行なう。また、社会的交流を深め孤立の解消・自立の回復に努める。 ③対象者： ア. 言語リハビリ教室は、在宅で言語障害のある者で、自力又は家族の協力により参加できる者。 イ. 40歳以上の老化などにより心身機能が低下している者及び痴呆予備群であって、日常生活自立度がランクJに相当する者。 ④実施回数：回数357回 延人員5,034人 ⑤実施場所：6か所 ⑥スタッフ：(1回につき)保健婦・看護婦・レク指導員・ボランティア7～8人 事業内容2 ①事業名：食生活改善地区組織活動 ②事業目的：地区組織活動を行なう推進員の主旨に賛同し、自ら推進員となってボランティア活動を実践する熱意のある方が中心となり、地域住民の健康づくりの支援を行なう。 ③対象者：高齢者対象(一般・虚弱老人等) ④実施回数： ア・高齢者の健康と食事 集団(162回)2,621人 個別(109回)529人 イ・男の料理教室 171人 ⑤スタッフ：地区の民生員、地区社協のボランティア、食生活改善推進員、栄養士

<p>(問3)</p> <p>上記事業の効果測定(評価)を行いましたか?</p>	<p>(○)行った ()行っていない</p> <p>(具体的方法)</p> <p>①高齢者食生活改善事業: アンケート調査結果 ②生き生き健康体操: アンケート調査結果</p> <p>結果別添</p>
<p>(問4)</p> <p>従来(旧)の事業を「介護予防事業」という形で見直したり、また新たな施策を企画することになった経緯について下記のような点を含めて記入してください。</p> <p>・中心となった部局はどこか? ・何がきっかけとなり、どのような判断をしたのか。</p>	<p>①見直しの中心部局: 保健福祉部</p> <p>中心課である高齢福祉課、介護保険課、保健センター3者による話し合いにより実施されたが、特に介護予防を含めた保健活動については保健センターが中心となって改善や見直しを行なった</p> <p>②見直しのきっかけと判断: ア. 「老人保健福祉計画」 イ. 老人保健事業第4次計画の見直し ウ. 介護保険制度導入 エ. 元気ひたち健康づくり行動計画立案等により介護予防の観点により必要と判断された。</p>
<p>(問5)で、関連(類似)事業がなかったと答えた市町村についてお聞きします</p> <p>今般、「介護予防事業」に取り組もうとしたきっかけは何ですか?</p>	

4. 「介護予防事業」の企画立案体制について

質 問 項 目	回 答 欄
<p>(問1)</p> <p>「介護予防事業」の企画立案体制について下記のような点を含めて記入して下さい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どのような場を利用し、どのような機関・団体等と協議したのか？ ・学識経験者や現場の担い手等の意見をどのように取り入れたか？ ・高齢者やその家族，地域住民等の参加する機会があったか？ ・どの部局が中心になって企画し，他の部局との協力体制は，どうであったか？ 	<p>①機関・団体との協議調整</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部内連絡会議での調整 ・日立市シルバー人材センター，日立市老人クラブ連絡協議会支部老人会長会議・日立市社会福祉協議会・日立市地区社会福祉連絡協議・日立市教育委員会スポーツ振興課・日立市体育指導委員協議会社会福祉事業団・日立市食生活推進会等との調整 <p>②どのように意見を取り入れたか？</p> <p>高齢者政策推進会議（計画部会・サービス調整部会），日立市地区福祉福祉連絡協議会，コミュニティー推進会議，寝たきり予防委員会，元気ひたち健康づくり市民会議，（健康まつり・健康推進モデル地区事業）推進員等各種委員会及び推進会議等の意見を聞いている。また，ボランティアや民生委員個別の意見を吸い上げている。</p> <p>③住民の参加する機会</p> <p>各種アンケート調査や実際の活動の場面で住民の意見を聞いている。</p> <p>④協力体制</p> <p>中心部局は保健福祉部である。実施企画のほとんどは，保健センターが立案していることが多い。企画したものについては保健福祉部企画員をとおして，部内及び部外との調整を行なう。</p>

(問2)「介護予防事業」を企画する際、下記のような検討事項があったと思います。貴市町村での検討事項と検討内容、その他結果について記入して下さい。

【検討事項例】

①ニーズをどのように把握するのか？

- ・国・県の動向
- ・日立市の諸統計〔・介護保険の動向・国民健康保険の動向・健康診査の実施状況等〕
- ・アンケート調査〔高齢者保健福祉計画・元気ひたち健康づくり行動計画〕
- ・地区活動（健康まつり・健康推進モデル地区事業＝3学校区）
- ・社会福祉協議会との連携（地区社協をとおして意見等の吸い上げ）等

②事業対象者の選定方法はどのようにするのか？

- ・介護保険対象外（介護保険の認定から外れた人）
 - ・60歳以上の元気な高齢者及び虚弱高齢者
 - ・40歳以上の老人保健事業対象者
- 以上、事業の目的・内容により使い分けしている。

③事業に従事する人材をどのように確保するか？

- ・ボランティアの確保（市報、地区社協との連携、健康づくり推進地区の設定）
- ・地区組織活動（健康まつり地区、健康推進モデル地区）
- ・ナースバンク・ハローワークの活用
- ・口コミ
- ・各種団体組織の活用（民生委員、食生活改善推進会、体育指導協会、更生保護婦人会、青年会議所、NPO等）

④新たな設備整備が必要か？

- ・今回の事業では特に設備整備はない。既存の施設や組織の活用によるところが大きい。

⑤部局の事業予算をどのように確保するのか？

- ・補助事業をさがす（国・県）
- ・日立市単独予算（元気予算、フレキシブル予算）

5. 「介護予防事業」の実施について

質問項目	回答欄
<p>(問1) 企画した「介護予防事業」の内容について記入して下さい。 ※事業の実施要綱, 事業概要があれば添付して下さい。 別添資料添付(事業2・事業3)</p>	<p>記入項目例: 事業名, 事業目的, 対象者, 事業内容, 開始時期, 実施回数(週, 月), 実施体制(スタッフ, 研修), 事業予算・補助金, 事業所管課, 他課との連携(協力)体制等</p> <p>事業名1 機能訓練事業</p> <p>①事業目的: 虚弱老人や軽度痴呆などに対し, 活動の場を提供し心身機能の維持回復を図るために必要な訓練を行なう。また, 社会的交流を深めて孤立の解消・自立の回復に努め, 介護予防や自立支援に効果的な活動を支援することを目的とする。</p> <p>③事業内容</p> <p>・13年度から日立市社会福祉協議会に「B型機能訓練事業」を委託。社会福祉協議会が小学校区単位で組織されている地区社会福祉協議会と協力して7地区8箇所で開催している。「いきいき健康クラブ(B型)」と名称を変え住民に理解しやすいネーミングを用い, 地区社会福祉協議会が学区別にボランティアとメンバーを募り実施している。</p> <p>一方, 保健センターでは「言語リハビリ教室」(失語症など, 言語障害のある者に対してSTによる集団訓練指導, その他レク指導等)を開催している。こちらについては, 市内全域からボランティア, メンバーを募集して月1回実施している。実施内容は, いきいきヘルス体操, 転倒予防体操, レクリエーション, 創作活動等を実施している。</p> <p>④実施体制</p> <p>1回の実施スタッフ 看護婦2名, 事務1名, その他必要に応じレク指導員 地区ボランティア平均13人</p> <p>⑤開始時期: 老人保健事業として昭和58年度から 言語リハビリは平成7年度から 平成13年度から介護予防事業へ組替えた</p> <p>⑥実施回数・場所</p>

<p>(問2) 住民に対して、どのように事業を周知しましたか? ※周知するための広報資料の現物の写しなどがあれば添付して下さい。</p>	<p>周知方法 ①市報掲載 ②関係団体への周知通知に併せた個別チラシ配布の依頼 ③公的機関への周知依頼(個別チラシの配布等) ④学区の広報紙の活用等</p>																																																																
<p>(問3) 「介護予防事業」の実施状況(実績)について記入して下さい。 ※貴市町村での実施状況(実績)をまとめた資料があれば添付して下さい。</p>	<p>記入項目例: 事業名, 事業費, 年間実施回数, 年間利用者数(実人数, 延べ人数) ※1年未満の事業の実施回数, 利用者数については, 実施期間内での実績を記入して下さい。</p> <p>①機能訓練事業 (平成13.4~12月実績)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>言語リハビリ (保健センター)</th> <th>回数</th> <th>メンバー/延</th> <th>ボランティア/延</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>田尻地区(2箇所)</td> <td>29回</td> <td>174人</td> <td>236人</td> </tr> <tr> <td>助川地区</td> <td>16回</td> <td>260人</td> <td>115人</td> </tr> <tr> <td>大みか地区</td> <td>16回</td> <td>99人</td> <td>208人</td> </tr> <tr> <td>宮田地区</td> <td>14回</td> <td>386人</td> <td>165人</td> </tr> <tr> <td>会瀬地区</td> <td>12回</td> <td>151人</td> <td>86人</td> </tr> <tr> <td>塙山地区</td> <td>15回</td> <td>189人</td> <td>215人</td> </tr> <tr> <td>大沼地区</td> <td>13回</td> <td>189人</td> <td>159人</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>114回</td> <td>1,448人</td> <td>1,246人</td> </tr> </tbody> </table> <p>その他研修会・交流会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア研修会(5/14) 63人 ・第1回茨城県失語症者のつどい(8/22) 392人 ・リハビリ交流会(11/) 71人 <p>②高齢者食生活改善事業(平成13.4~12月実績)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>回数</th> <th>指導延人員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>高齢者食生活教室</td> <td>6回</td> <td>131人</td> </tr> <tr> <td>高齢者在宅訪問</td> <td>43回</td> <td>115人</td> </tr> </tbody> </table> <p>③生き生き健康体操教室</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="2">健康づくりリーダー育成事業</th> <th colspan="2">健康体操普及拡大事業</th> </tr> <tr> <th>回数</th> <th>指導延人員</th> <th>回数</th> <th>指導延人員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>13年度</td> <td>18回</td> <td>748人</td> <td>9回</td> <td>182人</td> </tr> <tr> <td>12年度</td> <td>12回</td> <td>596人</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	言語リハビリ (保健センター)	回数	メンバー/延	ボランティア/延	田尻地区(2箇所)	29回	174人	236人	助川地区	16回	260人	115人	大みか地区	16回	99人	208人	宮田地区	14回	386人	165人	会瀬地区	12回	151人	86人	塙山地区	15回	189人	215人	大沼地区	13回	189人	159人	計	114回	1,448人	1,246人		回数	指導延人員	高齢者食生活教室	6回	131人	高齢者在宅訪問	43回	115人		健康づくりリーダー育成事業		健康体操普及拡大事業		回数	指導延人員	回数	指導延人員	13年度	18回	748人	9回	182人	12年度	12回	596人		
言語リハビリ (保健センター)	回数	メンバー/延	ボランティア/延																																																														
田尻地区(2箇所)	29回	174人	236人																																																														
助川地区	16回	260人	115人																																																														
大みか地区	16回	99人	208人																																																														
宮田地区	14回	386人	165人																																																														
会瀬地区	12回	151人	86人																																																														
塙山地区	15回	189人	215人																																																														
大沼地区	13回	189人	159人																																																														
計	114回	1,448人	1,246人																																																														
	回数	指導延人員																																																															
高齢者食生活教室	6回	131人																																																															
高齢者在宅訪問	43回	115人																																																															
	健康づくりリーダー育成事業		健康体操普及拡大事業																																																														
	回数	指導延人員	回数	指導延人員																																																													
13年度	18回	748人	9回	182人																																																													
12年度	12回	596人																																																															

<p>(問4) 現在実施している「介護予防事業」の実施状況を見て、うまくいっていると感じられるのはどのような点ですか？</p>	<p>①機能訓練事業について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 社会福祉協議会に委託したことで、地域住民の身近なところで実施できるようになった。 ・ ボランティアの活用がうまくいった。(地区社協の活用＝市内小学校区単位に設置) ・ 広報活動を地区社協ごとに実施したことで、保健センターが実施していたときよりも参加人員が増加している。(メンバー＝対象者，ボランティアの募集等) ・ A型からB型への展開
--	--

5. 「介護予防事業」の実施について

質 問 項 目	回 答 欄
<p>(問5)</p> <p>うまく事業をすすめるために工夫している点などがあれば記入して下さい。</p>	<p>①機能訓練事業</p> <p>ア 社会福祉協議会の委託事業とし、社会福祉協議会がさらに22小学校区の地区社会福祉協議会を活用して、ボランティアや対象者の確保に努め実施している。地区社会福祉協議会にとっては、地域活動の一環として事業の展開につながったことで、お互いの相乗効果となっている。</p> <p>イ 地区社会福祉協議会連絡会にて（主に会長出席）リハビリ事業の事例報告会。</p> <p>ウ リハビリ交流会を年1回開催し地域の情報交換の場として役立てている。</p> <p>エ ボランティア合同研修会を年間2回開催している。 （グループワーク、レクリエーション研修等）</p> <p>オ パート看護婦2名を採用、専属でリハビリ事業に参加しているため、住民とのコミュニケーションがうまくとれている。</p> <p>カ 地区担当保健婦は、委託した看護婦が地域に慣れるまで援助。看護婦が健康状態をチェックして問題と思われるケースや、休みがちなケースを家庭訪問等により、フォローする役割を行なっている。</p> <p>キ 老人保健法以前から老人福祉センターで実施していたA型機能訓練をとりやめ、それらの運営費で地域型のB型リハビリを展開した。</p> <p>②高齢者食生活改善事業</p> <p>ア 健康づくり事業の一環として食生活改善推進活動は乳幼児から高齢者まで幅広く活動している。現在の員数は370名おり、毎年50名を養成する計画である。各種団体の中では、食生活改善の具体的な活動を通し健康づくりの担い手として、またボランティアとして大変重要な存在となっている。</p> <p>イ 食生活改善推進員は、組織的にも小学校学区単位に活動グループが育っており、これらの組織活動を活用しながら地域の高齢者の支援に努めている。</p> <p>ウ 訪問活動については、推進員の身近な事例からアクションを起こしていく。</p>

	<p>③生き生き体操教室</p> <p>ア 60歳以上の元気な高齢者，特に老人クラブ加入を中心として，市内全域を3ブロックに分けて，ブロックを5年計画で，生き生き健康体操の普及と，老人会単会の代表者に体操の普及と健康推進に関するリーダーの育成を試みている。</p> <p>イ 体操がなかなか覚えられないため，13年度からフォローアップ事業として，体育指導員の活用を図り，前年度実施地区の希望地区や，その他希望地区に出向いて指導員が講習会を実施している。</p> <p>ウ 指導員の研修会（2回）の実施，（生き生き健康体操・転倒予防体操等）</p>
<p>（問6）</p> <p>今後，課題と感じている点があれば，それについても記入して下さい。</p>	<p>①機能訓練事業</p> <p>ア 地域の拡大に伴い，社会福祉協議会事業が実施している（地区社会福祉協議会）「ふれあいサロン」との整合性。現段階では，いずれかのものを22学区に立ち上げ，虚弱老人や独居老人等の受け皿づくりを行っていく。</p> <p>イ 住民の身近な場所ではあるが，会場までは遠い人も多。機動力の確保が必要と感じる。</p> <p>ウ 実施回数が少ないのが問題。（しかしながら回数が増加すると，ボランティアの協力・専門スタッフの確保・財源の確保等新たな課題が発生する）</p> <p>②高齢者食生活改善事業</p> <p>ア 男の食生活改善推進員の養成（最近男の料理教室の参加者が多くなってきている。）により，食事に関して自立できる支援が必要。</p> <p>③生き生き体操教室</p> <p>ア 老人会が高齢化している（体操に参加している者：平均75歳）</p> <p>イ 体操が覚えられない，忘れてしまう</p> <p>ウ 単会のクラブにうまく伝達されているかが心配である。</p>
<p>（問7）</p> <p>現時点で課題と感じている点に対し，考えられている対応策等があれば記入して下さい。</p>	<p>点でのつながりでは効果が薄いことから，面での活動に持っていくため，地区社会福祉協議会やコミュニティ組織のまちづくり協議会等，地区組織活動を効果的に活用する。また，行政組織も担当課や担当者のみでなく横の連携をとりながら，実施していく必要性を強く感じている。</p>

6. 「介護予防事業」の評価について

※行政が主体となって実施する（直轄・委託）保健・福祉事業に対する評価について伺います。

質問項目	回答欄
<p>(問1) 「事業ごとの評価」について伺います。 ①各事業メニューごとに評価を行っていますか？</p>	<p>(○) 行っている。→②へ () 行っていない。</p>
<p>②具体的な評価方法について記入して下さい。 (評価指標, 評価時期, 評価者等) ※「事業ごとの評価」を行っている評価の資料があれば、添付して下さい。</p>	<p>①機能訓練事業 ア 評価指標 言語リハビリ： ・言語リハビリ教室評価表（言語の改善の有無） ・Barthel指数の活用（個人の機能改善の程度やテンポの測定） その他のリハビリ： ・障害者老人の日常生活自立度判定基準 ・痴呆老人の日常生活自立度判定基準 ・老研式活動能力指数（生活機能アセスメント） イ 評価時期：初回来所時及び1年後の2回とする ウ 評価者：言語聴覚士による評価・保健婦による評価 ②高齢者食生活改善事業 ア 評価指標：食生活のバランスチェック イ 評価時期：初回及び指導後 ウ 評価者：栄養士 ③生き生き健康体操 ア 評価指標：アンケート調査（リーダーの普及度） イ 評価時期：終了後1年 ウ 評価者：保健婦</p>
<p>(問2) 「介護予防事業全体の評価」について伺います。 ①介護予防事業全体としての費用対効果をどのように評価していますか？ また、今後どのように評価したいと考えますか？</p>	<p>①介護保険の利用人員 ②今後の評価については検討中</p>
<p>②各種の介護予防事業関連施策における定量的あるいは定性的な評価指標などがあれば記入して下さい。</p>	

(資料)機能訓練事業

①-1 ほか

ふれあい健康クラブ及び言語リハビリ教室・(B型機能訓練事業)

①目的

この事業は、虚弱老人や閉じこもり老人及び軽度痴呆・脳卒中後遺症などで言語の不自由な方などに対し、活動の場を提供し、心身機能の維持回復を図るために必要な訓練を行う。また、社会的交流を深めて孤立の解消・自立の回復に努め、介護予防や自立支援に効果的な活動を支援する。

②対象者

日立市内に居住する40歳以上の老化等による心身機能が低下しているもの及び痴呆予備軍であって、当該者の日常生活自立度がランクJに相当する者。また、脳卒中後遺症などの言語の不自由な方。

③委託先 「言語リハビリ教室」を除き日立市社会福祉協議会に委託

④事業概要

当市の機能訓練事業は、13年度から「B型機能訓練」として老人保健事業から介護予防事業へ移行した。さらに13年度から介護予防の観点から地域に密着した活動効果を図るため、機能訓練の一部「言語リハビリ教室」を除き社会福祉協議会に委託した。13年度からは名称も「ふれあい健康クラブ」として地域住民に分かりやすく又参加しやすい名称を用い、地区社協のボランティアが中心となって対象者の募集や会場の設定などを行なっている。なお、社協では2名のパート看護婦を採用し、医療面からの訓練のサポートを行なっている。

なお、委託後の保健婦の役割については年2から3回受け持ち地区への参加と、リハビリ実施中変化のあった者や、参加中断者について訪問等により状況把握を行なう。

業内容は老人保健事業B型に準じる。

13年度計画

言語リハビリ(保健センター)	年間 12回(月1回)	計204回
ふれあい健康クラブ(7地区社協)	年間192回(月2回)	
ボランティア研修会	年間 2回	
リハビリ交流会(市内)	年間 1回	

⑤事業費 5,889千円

⑥事業開始年月日平成13年4月(老人保健事業の移行による)

＜平成13年度 機能訓練事業のご案内＞

名称	対象者	開催場所・日時	活動内容
言語リハビリ教室	在宅で脳血管疾患後遺症などにより失語症になった方、言語障害がある方及びその家族。	日立市保健センター 毎月第4水曜日 13:00～15:00 *送迎サービスなし、タクシー代の助成あり	言語聴覚士によるグループ言語訓練 その他音楽療法やレクリエーション等をボランティアと行います
ふれあい健康クラブ (地域参加型 機能訓練) *日立市社会福祉 協議会委託 連絡先 TEL 24-7799	在宅で40歳以上の老化等により心身機能が低下している者及び痴呆予備軍(軽度痴呆)、家庭内不閉じこもりがちな方。	はまぎく荘 毎月第4水曜日	社協の指導員(看護婦)のもと、 地区社協のボランティア及び 各講師で、集団で活動をします。 主な行事内容 レクリエーション・体操・遠足 手工芸等を行います。 送迎サービスはなし。
		田尻 田尻コミセン 毎月第2・4金曜日 いずれも10時～11時30分	
		助川 市保健センター 毎月第1・3金曜日 10時～11時30分	
		宮田 宮田ふれあいプラザ 毎月第1・3火曜日 10時～11時30分	
		会瀬 会瀬集会所 毎月第2・4月曜日 10時～11時30分	
		埴山 埴山コミセン 毎月第1・3木曜日 9時～11時30分	
		大沼 東金沢公民館 毎月第1・3水曜日 10時～11時30分	
		大みか 大みかコミセン 毎月第2・4木曜日 10時～11時30分	

【問い合わせ先】言語リハビリ教室に関すること 日立市保健センター 機能訓練担当 古市 TEL 21-3300
ふれあい健康クラブに関すること 日立市社会福祉協議会 担当 宮本 TEL 24-7799

生き生き健康体操教室(健康づくりリーダー育成支援事業)

平成13年度 生き生き健康体操教室

	健康づくりリーダー育成支援事業	健康体操普及拡大事業
1、目的	地域の元気な高齢者に対し健康知識の普及と実技指導を行い、生きがい活動と健康づくりが自主的にできるようにする。 また、高齢者の中から健康づくりのリーダーが育つように支援する。	生き生き健康体操教室における「いきいきクラブ体操」の普及拡大 平成13年度からの新規委託事業 日立市体育指導委員協議会委託
2、対象	概ね60歳以上の元気老人 (1) 成沢、多賀、東金沢地区の各単位老人クラブ代表者(33クラブ) (2) その他の機関 地区社会福祉協議会の代表者及び地区の民生委員 *市内に居住する単位老人クラブ(122クラブ)の代表者やすでに地域のリーダーとして活躍している地区社会福祉協議会及び民生委員の方を対象に年次的に対象地区を選定し教室を開催している。	平成12年度 生き生き健康体操教室を実施した豊浦、日高、滑川、本庁地区の単位クラブ等
3、内容	(1) 実施日 6月~12月 18日(回)予定 (2) 内容 1会場 6回で実施 ア、いきいきクラブ体操の実技指導 イ、介護予防の知識 転倒予防、食事、歯、閉じこもり予防、医者のかかり方、レクリエーション エ、講師 保健婦、栄養士、歯科衛生士、医師、音楽指導員等 (3) 会場 成沢公民館 多賀武道館 東金沢体育館 (4) 実施方法 保健センター企画	(1) 実施日 9月~3月 50日(回)予定 (2) 内容 ア、いきいきクラブ体操の実技指導 イ、講師 体育指導委員 (3) 会場 老人クラブ等が希望した会場 (4) 実施方法 保健センター 希望申し込み受付 (5) その他 体育指導委員研修会開催 2回

4、事業費	799千円	250千円
5、事業開始日	H12年4月	H13年7月